

中島興の ビデオソフト学入門



魔羅王像 この王は美出尾のシンボル像で、5つの目を持つ夷出尾王である。そして、この王は琵琶を奏する音像一休の王で、密教界における映像の王である。以後おみしりおきを。

質命学と ビデオ



地上に立った人間が大地を見回した時、木質・火質・土質・金質・水質の五つの元素の存在に気づいた。これらの五元素が天空の木星・火星・土星・金星・水星の五惑星と密接な関係があると考え、この因果関係を何とか地上にいて説き明かさんとしたのが、古代中国で生まれた「質命学」である。質命学では、天空には「五つの星(惑星)」、地上には「五つの元素」、人間の肉体には「五つの臟器(五臓)」があると考える。感覚には「五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触角)」があり、さらに味覚にも「五味(すっぱい・にがい・あまい・からい・しおっからい)」がある。つまりすべての根源が五つに分類されている。

これらの「五つ」は、地球も含めた宇宙空間で何らかの関係を持って動いており、その動きは宇宙と一体化し、一体であるが故にそこに一定の法則(システム)がある。その法則を現実に説き明かそうとしたのが「五行システム」といわれる「五行説」である。

「五行説」、すなわち「五行学」は地球における時間学の基本であり、原点でもある。この時間の概念は木星軌道によって作られており、地球の1年12ヶ月のシステムもこれによっている。もし土星を基点にしたと

すると、その公転周期は30年であるから、1年が30ヶ月となり、1ヶ月は12日、ひとつの季節は7ヶ月となって、人間の生活速度はスピードアップすることになる。このシステムも使用できないことはないが、地上のさまざまな気象現象とマッチせず、動植物の成長スピードや季節風などのバランスがとれなくなる。したがって土星の時間軸は地球のシステムにマッチせず、同様に火星、金星、水星といった各惑星の時間軸も地球上にうまく当てはまらない。つまり、時間学的に言えば、地球上の日常生活のスピードは、木星時間のシステムを守ることでバランスを保っているわけである。われわれ地球人は、地球に住みながら木星時間によって時空間の生活をしているのだ。

しかし、文明が発達すると、都市空間ではしだいに季節感がなくなってくる。四季おりおりの食物に区別がなくなり、日常的状況にスピードがつくと、いつの間にか木星時間を超えてしまう。そして木星時間に支配されていた肉体と精神は、しだいに土星的感觉へと変化していくのである。土星の影響を受ける都市型人間は、土星特有(土質)の土的人生観、土的性格、土的概念ワーク、土的宿命論、土的運命論に支配されるようになる。こうした変化は精神(ヘッドワーク)ばかりでなく肉体にも現れ、従来の木星的な時空間状況に対応できなくなる。精神と肉体の相対バランスがとれなくなり、肉体に異常な細胞組織が発生してくる。これが土星病といわれる「ガン」で、人間の肉体をむしばんでいるのだ。

だから、今、都市型人間（土星人）は、土=大地（山、田園、田、道、砂、沼）を分析し、それらの土のもつている性格を把握することが必要である。と同時に木的精神構造を知ることも大切である。人間本来の木質を知ることによって、土質とのバランスを保たなければならない。つまり、土的精神構造を把握すると同時に、木的分析力と分類力を獲得することが必要なのである。

これをビデオソフト学らしく言うと、スピードアップした日常に慣れている都市型人間は、本来の四季おりおりの変化にみちた時間に帰るべきだ、ということになる。それは言うまでもなく木星の影響下に入ることであり、これが本来の人間の在るべき姿なのである。もしこのまま土星時間の使用を続けるならば、人間はますます土的になり、ガンのような難病・奇病も増え続けるに違いない。

もっとも、地球には木星の影響を受けている木星人（木的人間）がいるのと同様、それぞれの惑星の影響下にある火星人、土星人、金星人、水星人がいる。これらの星人はそれぞれの惑星の影響を受け、またその星人同士が互いに影響し合い、バランスを保ちながらうまく機能し、生きとなんんでいるわけである。しかし、時間（こよみ）の上では、どんな星人もすべて木星時間に支配されているのだ!! その木星時間のシステムの中で自分が何星人（何的人間）に属するのかを認識するのが問題なのであり、ここにソフト学の原点があるともいえるのである。

金

さて、この辺で本題に戻ろう。前号では、「木的人間」「火的人間」「土的人間」について分析し、それぞれの人間にあたいるソフトワークを探ってきた。今回は前号に引き続き、「金」と「水」について分析してみる。

まず、金については、金の分類から始めなければならない。金と言ってももちろん「お金」のことではない。金星の影響下にある金的人間=金星人のことである。

金（金属）は石から生まれるが、その石だけとってもさまざまな種類がある。道端にころがっている石コロから宝石に至るまで細分することができる。金属も金だけではない。金、銀、銅、鉄、スズ、アルミ、ウラン……。こうしてみると、金属は人間の生活を豊かにした道具の原材料であることに気づく。石もまた、宝石のように装飾品として用いられる。

金属の最大の特質は形態が変化することである。したがって、金星人には時間をかけて叩いて、磨けば実際にごとな形に変化するといった「変化」と「変身」の特質が生まれながらにして運命的に備わっている。情況の変化に応じて、自分の精神をそっくり変化させることができるのである。頑固で一度型が決まると、その形態や様式を一生守り通すという一面もあるが、本来は精神に彈力性





的人間が客観的なのは一瞬だけで、早朝だけがやけに水的（計算的）で、朝にはもう水の特長を失ってしまう。霧の人間は人生の前半や早朝には霧のようにモヤって得体が知れず、計算づくりのようでもあるが、そのうちいつのまにかその特質が消えてしまう。雪人間は見た目には美しいが、冷静な客観性がどんどん積もるばかりで、最後にはその客観の重みで「客観死」してしまう。しかし一般には、砂漠の水のように一見ホットそうな外面を装い、その実内面では何を考えているのかわからない冷たさが、水星人の性格である。

ビデオソフト制作では、長期的な計画を立てる能力にすぐれているため、プランニングや企画、計画に天才的な才能を発揮する。とりわけビデオソフトの予算づくりは水星人をおいて他にいない。ソフト制作に水星人が参加すれば、絶対に赤字になることはない。水星人のヘッドワークはデジタル型で、すべてを数字で思考する数字派である。経営戦略ビデオ、新製品発売SP用ビデオ、国家プロジェクト・ビデオ、国家機密ビデオ、コンピュータ開発などに最大の力を発揮する。

水を観察するとわかるように、水は一定の「形」をもっており、自分の形を維持するために、裏で工作をしたり戦略をはりめぐらす性質がある。それはひとえに水の「形」を保ちたいための防衛本能である。

水人間のソフトにおけるライフテーマは「人生もの」や巨大タンカーの建造、トンネルやダム工事など長期的なものに取り組むのがベストだ。

しかし、雨の人間や霧・雪の人間のように粘り強さに欠ける水人間もいるので、その場合は金・木・土の人間を動員して“水らしさ”を発揮するか、大河のような典型的な水人間の中でカバーした方が良い。パートナーを見つけて仕事をした方が、水には良いだろう。

しかし、他の人間にとっては、水は降らなくても困るし、降りすぎても困るやっかいな存在である。そして、水には一ヵ所に集まる習性があるので、水星人の集團エネルギーには注意すべきである。

さて、読者諸君は何人間がろうか？五大惑星と五元素、五つの臓器、五感、五つの味覚、五つの指、五大陸、というように、「五」は常に宇宙空間で一体であり、バランスよく機能している。そしてまた、ビデオもカメラ、デッキ、テープ、バッテリー、撮影者の五つがバランスよく機能し、その状態が最高になった時に傑作が生まれるのである！！五という数の意味をよく理解し、ビデオソフト学の基礎を実践してほしい。五がビデオソフト学の出発点である！！

陰陽学と ビデオ



陰陽学は「陰陽の思想」といって、五行説よりもはるかに古い思想である。古代中国の殷の時代に始まり、すべてのものを「陰」と「陽」のふ

って、ビデオ文化やビデオ芸術どころではなくなっても、どこからか資金を集めてきてビデオを作るのが金星人である!!

ソフトワークは戦闘的なプロパガンダ・ビデオや革命的なアジテーション・ビデオ、特ダネ・ビデオといった生と死のギリギリのところをテーマにしたもののが最高である。自分から積極的にビデオプランニングすることはないが、一度頼まれれば命をも投げ出すといった精神的フィールド（性格）をもっている。

他力本願的で、日頃は人に言われたことしかしない部品的「パーツ主義」だが、役割を分担したビデオ制作には最適である。少々サディスティックな面もあるので、サド・マゾをテーマにするのも体質的に良い。また、血を見ることが好きなので、医学用ビデオ、中でも手術シーンの撮影には最適である。その他スポーツワークのソフト作りや、闘争的な作品作りにも向いている。短編、中編、長編の中では中編ものを得意とする。

火・水・金の三身一体でビデオを作る場合は、それぞれの個性が明快に現れ、すばらしい作品を作れる。水星人がプランニング、火星人が撮影、金星人が編集すれば傑作ビデオが生まれるだろう。

水

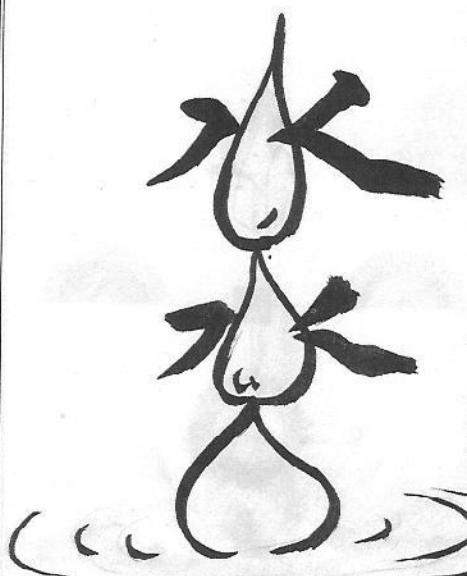
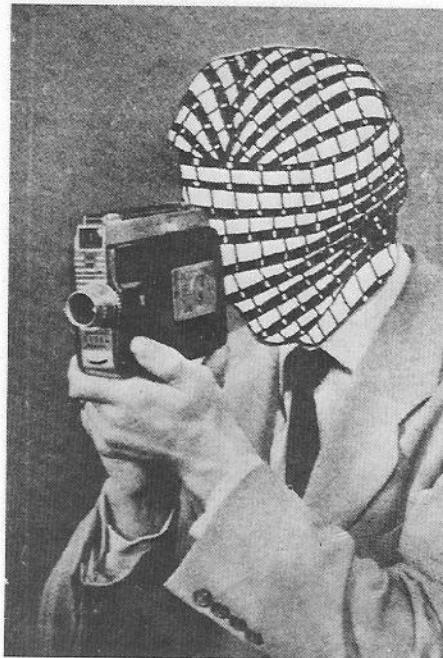
水にもさまざまな水があり、いろ

いろな形態に分類することができる。大地に立ち外景に目をやると、まず海が見える。さらに大湖があり、大河があり、小川があり、池があり、沼もある。そして水は雨、露、霧、雪、雲、霜といった具合にも分類できる。この分類を人間の性格に置き替えて分析すると、水の人間（水星人）の性格がみえてくる。

まず水的性格についてみてみよう。雨となって地上に落ちた水は湧き水となって小川を作る。小川は川となり、いくつもの中、小の川が集まって大河を作り、大河は海へと流れ込む。この自然のシステムの中で、水の最もユニークな特質は、山から海に至るまで、すべて水同志でつながっていることである。つまり、水人間は連帯感があり、団結がその特長である。さらに水は粘り強く、時には巨石をも切断してしまうほどのパワーを秘めている。巨石のくぼみにたまつた水は、何百年もの年月をかけてその内部に浸透し、ついにはその石を破壊してしまう。長時間にわたってエネルギーを持続させる能力をもっているのだ。だから水人間を裏切ったり敵に回したりすると、長時間をかけて仕返しされるので怖い!!

さらに水人間は冷静であり、計算づくですべてを実行できる特質をもち、完全主義者でもある。また、木や金を育てるには主觀的でホットなところをみせ、火や土に対しては客観的でクールである。

しかし水人間もさまざままで、雨の人間のように降っている間は冷静で客観的でありながら、降りやんだとたん冷静さを失う水人間もいる。露





があり、時代や環境の変化にたちどころに適応するという柔軟性（いいかげんさ）をも内在しているのである。しかし、金星人の最大の欠点は、叩いたり、磨いたり、熔かしたりして加工しなければ、ただの石コロと同じで、何のエネルギー（価値）も発揮しないということだろう。よって、他者（使い手・加工する者）あっての金属人間（金星人）で、『どうにでもしてくれー!!』『どうにでもなれー!!』『なるようにしかならないヨー!!』とよく言う、他力本願的な精神構造の持ち主はまず、金星人といっていいだろう。しかし、金星人のよさは、そうした他者との関係によって、はじめて発揮させられるのである。

だが、金属同士が意外と混じり合わないように、金星人は自意識が強い。金は黄金であることを誇り、銀や銅も同様に自己の貴品さを誇る。また外面の美しさを誇るわりには、内面はデリカシーで神経質でもある。そして金には金、銀には銀の使い道があるように、金星人は専門志向を最大の喜びとし、技術開発の面では最大のエネルギーを発揮する。学者タイプが多く、専門バカと呼ばれるタイプはたいてい金星人である。しかし、そうした人も自分の中にある「光る石」を見出し、金属を作る時のように、その石を火で熔かし、叩いて伸ばし、水につけて固く強く弾力のある金属（金の人間らしい精神）にするといった鍛錬なしには、本当の金星人にはなれない。金星人がその特質を余すところなく発揮するためには、金属が火と水を必要とした

ように、火と水、つまり火的人間と水的人間の協力（愛のムチ）が必要なのである。それがあつて初めて、「金属（金の人間）」らしい輝かしい形態と価値を獲得することができる所以である。

ピアオソフト学流に言えば、金星人はソフトよりハード機器制作に向いている。デジタルよりはアナログ、基盤回路設計よりはメカ設計を得意とし、ビデオヘッドのシリンダー設計開発などには最大の能力を発揮する。また、金は加工して刀やオノに変身して木や土を傷つけ、時には戦いの道具としても用いられることからもわかるように、闘争心が強く火的人間や水的人間の愛のムチに合わないと、人を深く傷つけたりする。このように戦争や兵器づくりを好むという一面をもつ金星人に、ひとりで商談などをまとめさせるとたちまち戦いになってしまふ。しかし、ニュース番組の取材合戦や特撮もののきわめつけビデオ撮りには金星人がもってこいであり（画像の良し悪しは別）、戦って戦って戦いぬいても最前列でチャンと撮影してくるという闘争心がある。アドベンチャー・ビデオ、秘境もの、ヒマラヤの雪男の撮影などには命を惜しまず参加する。落ちめのビデオ・プロダクションなどには、最も頼りになるタイプで、言われた以上の働きもするが、少々強引で前後の見境のないのが欠点でもある。しかし、水と火がうまくリードすれば、金星人は不思議なほど冷静になり、金特有の能力を発揮する。巨大な資金をバックに豪華な超大作ビデオを作ったり、不景気にな

プラス+

マイナス-

陰一

陽十

ネガ

ポジ

生死

裏表

五元素	五行				
	陰陽	十干	12支	事象	
木性	陽+	甲	1	寅	樹木・巨木・林
	陰-	乙	2	卯	草木・雜草
火性	陽+	丙	3	午	太陽
	陰-	丁	4	乙	灯火・焚火・野火
土性	陽+	戊	5	辰戌	山岳・山・峰
	陰-	己	6	未丑	田・園・道
金性	陽+	庚	7	申	鐵鋼金・刃・劍・金・銀・銅
	陰-	辛	8	酉	寶石・貴金屬・石
水性	陽+	壬	9	子	海・大湖・大河
	陰-	癸	10	亥	雨・露・霧・霜・雪

陰陽五行説

たつに分類する方法で、世界最古の分類学である。

人間には男(陽)と女(陰)。物ごとには表(陽)と裏(陰)。1日は昼(陽)と夜(陰)。空間は天(陽)と地(陰)。性格にも陽性と陰性。電子工学ではプラスとマイナス。人間関係ではプラスの関係とマイナスの関係。ポジティブな場合とネガティブな場合。印刷におけるポジ技法とネガ技法。ビデオカメラ(陽)とテープ(陰)。このように陰陽学では、すべてが陰と陽のふたつに分類される。この陰陽学と、今まで述べてきた五行説をミックスすると次のようになる。

表のように五行説の中に陰陽学をシステムチックに参加させると、天を陽とするので、天の惑星は陽木星、陽火星、陽土星、陽金星、陽水星となる。これに対し地の五行(五元素)を陰木星、陰火星、陰土星、陰金星、陰水星とする。こうすることによって、天と地の現実は10種に分類され

るのである。ふたつの認識と5つの概念は10の世界へと広がる。

ビデオソフト作りにおいても、陰陽論がその理論の根源で、オーディオ・ビデオの記録機構である磁気方式はすべてプラス・マイナスの陰陽システムである。

このビデオソフト学は、ひとつの時間学であり、また分類学でもある。ビデオを手にした時、発想は豊かでなければならない。そしてビデオは時間を切りとるメディアであるのだから、作り手は、まず自分が何星人であるのかを知っておく必要がある。

前号同様、自分の性格や人生観、運命論、また五行、陰陽、五惑星、五元素についてイメージがわいたら、ハガキにイメージ・スケッチを描いて送ってください。ビデオは人間のボディー同様、磁気性の強いメディアなのです。

(映像作家)